

令和6年度 入学式 式辞

厚別（あしりべつ）川の心地よいせせらぎ、そして、あたたかい陽射しとやわらかい風の中に春の息吹を感じられるようになりました。

この春のよき日に、PTA会長様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、また、保護者・ご家族の皆様のご列席のもと、市立札幌清田高等学校第五十回入学式を挙行できますことは大きな喜びであり、職員を代表し、厚くお礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました二百四十名の第五十期生の皆さん、入学おめでとうございませう。いま、皆さんの胸中は、入学の喜びと、今後の高校生活に向けての大きな期待に満ちていることと思います。在校生、職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

本校は札幌市立の七つの高等学校の一つであり、昭和五十年に開校、令和七年には創立五十周年を迎えます。平成十七年には、国際的な視野で学びを広げる「グローバルコース」の設置、令和二年には単位制が導入されました。

本校の伝統あるよき校風に、新しい風を取り入れながら、「スクール・ミッション」と「学校教育の目標」に支えられた、本校のアイデンティティが、皆さんの諸先輩や職員、本校へご支援いただいている

多くの皆様によって紡がれています。

「スクール・ミッション」は、

「未来に向かって、自ら考え、自ら学び、寛容な心で世界と協働し、積極的に社会に貢献する人材を育成する学びの場」

とする使命が、本校に与えられています。

また、「学校教育の目標」は、

「すべてのことに、なぜと問い、きわめ確かめる生徒であれ」

「なにごとにも、なおもっと、と立ち向かう生徒であれ」

「心身ともに健康な、たくましい体力を目指す生徒であれ」

「美しいもの、崇高なもの、に深く感動する生徒であれ」

です。皆さんに目指してほしい生徒像であり、開校以来の不易な目標になっています。

私は、第五十期生の皆さんを、本校のアイデンティティをともに紡ぐ一員、そして仲間として、お迎えできることを大変うれしく、誇らしく感じているところです。

作詞家の阿久 悠（あく ゆう）さんの作品の中に「あの鐘を鳴らすのはあなた」があります。

「あなたに逢えてよかった／あなたには希望の匂いがする／つま

ずいて傷ついて泣き叫んでも／さわやかな希望の匂いがする」。

「あなた」とは、もちろん皆さん一人一人です。これからの時代を担う「あなた」に「未来感」を感じています。そして「希望の匂い」とは、「ひたおきに未来へと走る姿勢・感覚」ではないでしょうか。

これから先、つまずいたり、傷ついたり、泣き叫んだりすることもあるでしょう。悔しくも、苦しくもある人生の中で、それを乗り越えるひたおきさ、「なおもっと、と立ち向かう」姿勢を、ぜひこの3年間の学校生活の中で追求してほしいと思っています。

また、出会いは何人も人だけではありません。授業で学んだこと、学校生活や生徒会活動、部活動で取り組んだこと、行事で感じたことなども出会いといえるでしょう。様々な出合いを大切に「深く感動」することを、さわやかに希求してほしいと願っています。

そして、皆さんには、仲間や職員、ご家族の皆さん、本校を支えてくださる多くの方がついています。

高校卒業の三年後、高校生活の日々をふと振り返った時、「今日のあなたの隣の人が、いつかあなたのよい思い出になるかもしれない」という気持ちがあってほしいと思っています。

しかし、その思い出を決して悲しいものにしてほしくないとも思

っています。スクール・ミッションにある「寛容な心」を持ち合わせながら、「いじめは絶対にしない、させない、許さない」という意識をもち、皆さん一人一人が楽しく過ごす三年間にしてほしいと思っています。

さて、保護者・ご家族の皆様、改めましてお子様のご入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。お子様のはぐくみを支えるためには、ご家庭との密なる連携と協働が大切だと考えます。保護者の皆様には、本校の教育方針、教育活動にご理解をいただき、お子様の成長を温かく見守り、人生の先輩としてのアドバイスや励ましの言葉をかけていただきたいと思います。どうぞ、これからも本校へのご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、本日、晴れてこの入学式を迎えられました第五十期生の皆さんが、素敵な三年間を過ごせるよう、そして未来へとひたむきに走る姿勢に助力できるよう、職員一同、全力でサポートすることをお約束し、式辞といたします。

令和六年四月八日

市立札幌清田高等学校 校長 三 関 直 樹